

## シンポジウム総合討論



井上：同志社大学にとってきわめて重要な良心の概念について、お聞き及びのように3人の先生が少しずつニュアンスを異にしておっしゃったように思っております。また、皆様もある意味では違った視点で捉えられているかもしれません。ただいまから質疑応答の時間といたしますが、フロアの皆さんは最初にお名前をおっしゃってください。しかし、そのお名前が実は来年2月に出版する『新島研究』の111号にそのまま出るとは限らないのであります。それで、お名前を伏せて、かつ質問事項を簡潔にして、あるいは回答をなさる先生の中身を簡潔にお載せするということになるのではないかとと思いますが、どうぞご理解をいただければと思っております。それでは、フロアからご質問・ご意見を頂戴いたしますが、まずお名前から。どの先生にご質問・ご意見をお出しになるかおっしゃってください。では、どうぞ。

（質問者がいない。）これはどういうことでしょうかね。はい、どうぞ。簡潔にお願いいたします。

A：これは質問ではないんです。良心碑ですね。大学の正門の前に立っているあれは、半田家からあの石が寄附されているんですね。あれは碓氷峠からとれる碓氷石です。半田家は5代にわたって同志社の協力者なんですけど、私はその6代目になると思うんですけども半田三郎と岩倉で同級生だったんです。彼は新島学園から同志社へ来ましたんですね。それで、その弟が香里へ入学したその記念に、また半田三郎君のお父さんが香里にもその碓氷石を寄附しまして、香里にも良心碑があるんですね。香里の長身ではなくして、長方形だそうです。

それで、半田君のところは戦前は同志社の山林王と言われていまして、朝

鮮に広大な植林をしたんですね。それで、何を植えていたのかと半田三郎君に聞きましたら、主に松の木を植えたと言うんですね。それは成長が早いからということで、大正の終わりから昭和の初め頃にかけて植林を本格的に始めて、松の木は戦前、北朝鮮に三菱製糸もあったんだから。

井上：短くお願いできませんか。

A：もうすぐあれです。恐らくパルプなんかに使われたんじゃないかと思えます。それで、群馬県では湯浅総長のお家の湯浅家、それからその半田家、それから住谷先生のお家の住谷家、この御三家は親戚より以上に親しく交流されています。それで、半田三郎君は住谷先生からわが子のように、それからご次男の住谷馨先生からは実の弟のように非常に大事にされていました。参考になるかどうか分かりませんが、半田家についてちょっと申し上げました。どうも。

井上：はい、ありがとうございます。ほかにいかがでしょうか。はい、どうぞ。

B：根本的な質問になってしまうんですけど、何遍もおっしゃったように、ある言い方をすれば苦し紛れの弁解であったような発言をされていたので思うんですが、儒教というのは神を一切認めていませんね。人間が最高ですね。それで、僕、立命館出身なんですけど、立命館は孟子をすごくたたえているんですね。

そのことはどうでもいいんですけど、だから、ここの話し合いというのはキリスト教を認めないという軍部と、神を信じていないグループの言う良心というものの論争となれば、一体どういうことになっていくんですかね。同志社の存続のために一生懸命軍部を、悪い言葉を使えばだましたということを理解すればいいんですか。

沖田：和田洋一先生はそのようにおっしゃっています。棚上げ論で、キリスト教主義というものを棚上げにして良心碑を作ったと。だから、軍部に妥協じゃなくて、形式的には妥協という形をとるんですけども、同志社の根幹はこれによって守られたというのが和田先生の考え方です。私はそうは理解していないんですね。

B：と、言いますと？



沖田：やはり良心碑を建立する前に、同志社教育綱領を作りますね。あそこで当時の教育勅語体制を認めた。あれ、認めなかったら、同志社には兵役免除の特権を与えられない。立教なんかは特権を放棄して、キリスト教主義を維持したんですけどね。だから、恐らく同志社は配属将校の要求にノーと言ったら、配属将校は引き揚げます。引き揚げたら同志社には兵役猶予の免除を与えられない。与えられないということは、学生も来なくなる。

そういう状況の中で、やむなくこれを出したのではないかと思うのですね。

**B**：ありがとうございます。

井上：よろしいですか。お次、いかがでしょうか。はい、どうぞ。

**C**：先生方、ありがとうございます。同志社大学神学部研究科の博士後期課程にいますと申します。私は、第一部門研究の会員でもありますし、あと良心学研究センターのサポーターもしております。指導教授は小原先生です。

皆様が議論される前に、良心学研究センターの設立であつたりか思いであつたりというところを先にお伝えしておいたほうが議論になりやすいのかなというところがあったので、感想と含めて、質問ではないのでちょっと申し訳ないんですけど、聞いていただけたらなと思います。

井上：短くよろしく。

**C**：短く行きます、はい。5点でまいります。まず、良心学研究センターの立ち上がりのところからなんですけども、文理融合の学際的なプラットフォームを目指すというところ。それから、良心教育という言葉がやっぱり朝からずっと批判的な意味で使われているというか、批判対象として上がっているかと思うんですが、良心学研究センターが立ち上がってやってくる中でも、良心学は良心教育のアンチテーゼであるべきであるという考えに至っています。

それで、三つ目ですけれども、両キャンパスをつなぐという意味で学際的

というところにかかってくるかと思いますが、科学的な視点も含めたところで研究していこうというのが三つ目です。

そして、四つ目になるのが同志社の内部においても広く訴えていきたいというか、広くつながってきたいというところが四つ目の目的です。

そして、五つ目ですが、同志社を超えて外に、世界的に今はもう文理融合というのは進んでいますので、この点において良心学を掲げて同志社から発信していきたいというところがあります。

これがもとにありまして、私自身の博論のテーマの目的の一つに、実は北垣先生が同志社 140 周年のシンポジウムでお話しされたときに、同志社はキリスト教主義に対して一定のきちんとした考えであったりとか態度を表明しないといけないという提言をなされていたと思うのです。それで、北垣先生が挙げられた同志社にとってのキリスト教主義というのは本来どうなのかというところを、私自身も良心教育というよりも良心学ですね。良心という言葉が歴史上何度も出てきますけれども、それを含めて比較しながら北垣先生の提言に応答したいというのが私の博論の目的の一つになっています。

そこを含めて、第一部門研究の会員として、それから良心学研究センターのサポーターとして、両方から見た場合に、先生方の作られてきた歴史的な研究、歴史研究の基盤というのはどう考えても揺るぎないので、その部分も当然必要であり、新しく文理融合の学際的なプラットフォームもやはり同志社にとっては必要なのではないかなと思っています。すみません、完全に感想になってしまったんですけども、ありがとうございました。

井上：北垣先生、何かご意見はございますか。

北垣：ご質問の意味がよく分からないんですけど。

C：先生にご質問というよりも、思いというか、良心学研究センターの目的であったりというところを皆様にお伝えしたことと、あと私自身の博論の研究テーマが北垣先生のご提言に応答することを目的としていますという宣言に近い形でした。なので、質問では全然ないです。すみません。

北垣：ありがとうございました。

C：ありがとうございます。

井上：伊藤先生、何かございますか。



伊藤：現実の同志社の中で良心の問題を具体的な問題として考えないといけないということはあろうかと思います。それで、引退していると新聞とかテレビでしか同志社情報に接しないわけですけども、非常に気になるのは木屋町のあたりで田舎から来た女子学生をだますように恋人気取りで誘い込んで高い酒を飲ませて、風俗で働かないと返済できないようにすると。しかも、そういう人たちがそういう問題を親なんかには絶対に話さない

ということをよく心得て知っているわけですね。そして、売り飛ばした学生の中に同志社の商学部が2名いたと。名前も出たりしています。

それを追っていますと、京都産大の学生は元学生というふうにあるときから変わっているんですけど、同志社のところは一体学内でどういう処分がされたのか。何もされていないのではないだろうか。一切そういう情報が出てこない。だから、ひょっとしたらこのまま同志社卒となって、また活動するけれどもそれでいいのだろうか。具体的には、一体こういう大きな組織の中でそういう犯罪をした学生をどう処分しているのか、大変気になるところです。

井上：ありがとうございました。今の問題について、私はこの教室に参りますときに正門から入ってまいりました。正門の一番近いところに立て看が出ておりまして、今伊藤先生がおっしゃったように、5月に新聞記事になりました同志社の学生2人が女子学生を誘拐して云々という問題に対する大学のとうとうとする姿勢が伺われる文章でございます。私は、あの問題について大学はその所属の学部が中心になって、どのように検討されているのか、いたのかについては、当然聞きたいわけではありますが、まだそこまで行っていないのか、結論は出ておりません。

ちょっと参考までに申し上げますと、新島襄は、今われわれは良心問題を検討しておりますが、明治18年12月の末にアメリカから戻ってまいりまして、新島は同志社創立10周年の記念の会の冒頭にこういう演説をしております。自分が留守中に起こった同志社における事件、恐らく今回のような事

件に近かったのではないかと感じておりますが、その事件に対してきわめて残念であると。今後、こういうことのないようにいたいという意味のことを彼は聴衆に訴えているのでありますが、新島の良心に対する考え方、姿勢の一端をそこから読み取る思いがいたします。

神学部の大学院生の方、どうぞ、一遍その手紙を読んでみてください。明治18年12月の創立10周年記念式典の冒頭の部分であります。はい、どうぞ。

沖田：私の学生時代のことを思い起こしたら、宗教学が必修科目であった。それで、いろんな聖書の話聞いた。もう一つは、チャペル・アワーというのがありましたね。そのときには全部授業をやめて、もちろん行くのも自由、行かないのも自由。そこで志ある人は牧師さんの説教を聞いたり、人権の問題の議論に入ったり、そういう時間があったんですね。今は同志社関連科目、本井先生がやっておられた科目とかがありますが、出席する学生も少数で同志社のことを知識として教えるんだけど、本当に同志社の教育の根底にあるものを学ぶ場というのがあまりない。あまりというか、ほとんどない。

先ほどの学生のことでありますけれども、恐らく立命も産業大学も、罪を犯したらすぐに退学させるんですよ。だから、「元」となります。同志社はちゃんと裁判を受けて、ちゃんと決まってからでしか言わない。本人と面会してどうなのか確認してから処分する。そういう意味では良心的ではあるんでしょうね。

新聞報道によりますと、彼らはああいうことをやって起業家としてお金もうけの勉強になったとっています。人を使うことを学んだとも述べています。今、同志社では起業家になることを勧めています。企業を起こして自分でビジネスの世界に入っていくなさいという教育もやっていますよね。あれはどこの大学でもやっています。一番重要な事は起業と同時に良心や倫理をセットで学ばせるということですが、今はそうじゃないんですね。学生でも、学生ビジネスを起こして、あれは何億円ともうけたんですね。億近いお金を動かしたんです、学生が。これは人生のええ勉強になったと彼らはいうのです。それと彼らの罪意識というのはどうなのか。

これで、同志社は良心教育をしていると言わなかったらいいんですよ。同志社大学は良心教育、良心教育、良心教育と言いながらもああいう問題が起こっていることに対する責任のあり方というのは問われなければならないと思いますね。だから、私はそういう意味ではキリスト教文化センターの所長の横井先生にも、やっぱりチャペル・アワーは講義を入れずに空けておくべきであると申し上げたい。真面目な学生はチャペル・アワーに出ません。授業があるから。不真面目な学生は授業も出ないし、チャペル・アワーも出ないというふうになりますよね。だから、学生が良心やキリスト教について学べる、そういう仕掛けをいろんなところで設けておいて欲しいですね。同志社に入ってみて悩みがあったら、聖書の会に出てみようかと。そういう学生はいっぱいいると思うんですよ。そういう学生が来る場があればいいですね。お昼休みはみんな御飯を食べますのでね、学生にとって時間はありません。昔はそういう意味では、いつでも空けて待つという教育というのがありました。そういう意味では、良心教育の実態としてはあった。キリスト教主義をベースにしてね。

私は今年定年で退職しました。40年間同志社で教鞭を取ったのでありますけれども、年々、そういう同志社のキリスト教主義のよさがなくなってきたと実感しています。『同志社の思想家たち』という本が出されたのが大分昔ですよ。今から50年ぐらい前。そこで編者の和田洋一先生が同志社らしくなくなったと書いておられます。私はそれを新編で出したんですけど、もうこれは完全に同志社らしさが失われ、立命とか京都大学とかとの違いはどこにあるのかというと、見えなくなってきた。そのへんは、やっぱり構成員の教員一人一人がどう自覚していくのか。恐らく、教員の先生方がそういう意識を持って教壇に立たねければ、単に外国へ行って英語が話せれば国際化であるとか、もっと国際的ビジネスマンとしてお金を稼ぐ方法を学べというのでは、良心教育をしているとは恥ずかしくて言えませんね。

新島先生がおっしゃった、私が世の教育家と違うところはキリスト教主義の徳育をもって教育の基盤とすると。その一点が非常に重要なんです。かえって良心教育という言葉では曖昧になっているのではないかとちょっと思ったりするんですけどね。

井上：ありがとうございました。横井先生、われわれの研究会で先生が代表として今日この大きなテーマを掲げることを主張なさった、その理由を皆さんにおっしゃっていただけないでしょうか。



横井：沖田先生、ありがとうございます。キリスト教文化センター所長でもありますので、大変身の引き締まる思いがいたしております。先生がおっしゃるように、この3月にご退職なさった原先生もやはり良心教育、良心というのは実はキリスト教隠しだということをはっきりおっしゃることが多かったです。実は、キリスト教文化センターの教員、あるいはセンターの中でも良心教育というのはどうだろうかということは大変問題になっ

ていて、やはりキリスト教主義というのを強調すべきではないかということではセンターの中でも言っているところです。

それで、教職員を対象にした研修会というものを毎年開催するようになりました。もう4年になります。それから、入社5年目の、これは法人、全学校ですが、5年目の教職員を対象にした研修というものも行われるようになってきております。多くの先生方にご協力いただいています。そういったことで、教職員にもキリスト教主義というものを広く知ってもらおうということを意識してやっているつもりです。

学生に対しては、大変申し訳ありませんが、チャペル・アワーはランチタイムと、それから5時半の夕方と、昔の5時半のほうがそのときは火曜日だったと思いますが、2部の時間で少し開始が遅くなったりして、その時間が空くようになっておりました。時間割にCHと書いてあったのを思い出します。ほかの時間も昔はそうだったようで、CHということで空けていたんですが、今はすべて授業時間中かお昼休みか放課後ということで、一応どれかには行けるようにしているつもりなんです。学生の出席、ランチタイムは少し上がってきておりますが、まだ少ない状況ですので、ぜひ学生たちがチャペル・アワー等に向かっていくようにいろいろ工夫をしたいなと思います。

キリスト教文化センターで発行いたしておりますパンフレットについては、本井先生にも執筆をお願いしておりますが、キリスト教主義、それから国際主義、それから自由主義、三つの建学の精神といましようか、教育理念は並び立つものではなくて、基盤にキリスト教主義というのがあるのだということを今のキリスト教文化センターでも強調しているところで、沖田先生にもいろいろお世話になっているところです。頑張ってまいりたいと思いますので、よろしく願いいたします。

井上：ありがとうございます。今お聞き及びのような考え方を同志社は持っておりますし、将来に向けて少子化の中で同志社が生き延びるためにも、大学の特徴を明確にするという意味からも、良心教育とは何かということ、こういう機会です問題にしているところでございます。ほかにどなたかご意見、感想などはございますか。はい、どうぞ。

D：商学部 OB の D と申します。どうぞよろしく願いいたします。沖田先生に一つお尋ねしたいんですけども、これはちょっと愚問かもしれませんが、良心碑のことにに関してなんですが、湯浅先生がこれは聞いておられたということなんですが、良心碑は場合によってはもう廃止してもいいかもしれないというふうなことをおっしゃっておられたということを先生はおっしゃいました。

しかし、結果的に良心碑は敢然として正門の前に立っております。それで、この良心碑が存続したということの裏には何か大きな理由があるのか。それとも、そうじゃなくて、たまたまといいますか、物理的といいますか、やむを得ない理由があったのか、ちょっとそのへんの追及は一つ鍵になるのかならないのか。私は非常に大事なものであり、多くの人に受け入れられているからこそ良心碑は残っているというふうに考えたいと思っていますんですが、そのへんは沖田先生はどのようにお考えでしょうか。

沖田：いや、私は別になくさなくてもいいと思うんですけども、良心碑そのものが立てられた経緯をしっかりと理解することが大切だと思うのです。ずっと同志社の教育は良心教育であったというような言い方はきわめて歴史の事実と反すると。

ただ、良心教育の内容は変わっていきますよね。言葉というのはね。だか

ら、一番私が言いたいのは、良心教育は、戦前はこうだったんだけど、本当は良心教育はこういう意味があるんだと。新しい良心教育に意味を付与していくというね。これが今良心学研究センターでやっておられることなんです。良心教育は駄目だ、ではないんです。

私が学生のころには良心教育とは一体何なのかということがあったんですけども、その当時の人たちはあれによって辞めさせられた人がいるんですよ。同志社新教育綱領に反するから排除しなければならないと。

それで、戦後、GHQ が参りまして、同志社は戦中にひどい軍部の抑圧を受けたでしょうという議論のときに、戦争直後の学長は誰でしたっけ。牧野虎次さんが「いや、あまりそれはなかったんだ」とおっしゃった。私が知っているのは、それで、良心碑が残ったと思うんですね。軍部から弾圧を受けて止むなく良心碑を建てたとは、牧野さんはおっしゃらなかった。こういうことをオーテス・ケーリ先生から聞きました。これは文章でも残っていますよね。戦中の軍部の抑圧を受けたかどうかで牧野さんが個人的に調査をとられて、同志社は、それほど問題はなかったということをおっしゃっている。そのことが良心碑が残った大きい要因ではないかと思っているんですけどね。

井上：よろしゅうございますか。はい。どうぞ。

E：1978年度生のEと申します。私も去年定年になりまして、無事会社で不正を行うこともなく定年になったのは良心教育のおかげだというふうに思っております。昨年からちょっと時間がとれたので沖田先生の講義を2回ほど続けて聞かせていただいて、良心教育ということと、新島先生の教えを再び勉強させてもらっているというところです。

私の大学時代は、もう本当に良心碑を見て、言葉で感動したというようなことで、どちらかというところ「丈夫（ますらお）」という言葉が今の学生にないなということで、われわれの大学のときはラグビーも優勝しましたし、野球も原監督の東海大学と岡田の早稲田を破って優勝したということで、東京に負けるかという感じの雰囲気があって非常によく、やっぱり自由主義とか国際主義、キリスト教主義、3本で、私も海外の仕事をやりましたし、非常にいいと思うんですけども、良心というのが非常に人によって違うこと

でしょうし、実際に学生に対して具体的な良心教育というのがあるのかどうか。例えば掃除をしるとか、そういうのはあまり聞いたことがないので。新島先生の教えがどういうふうに大事なのかをもうちょっと学生に士農工商の身分制度のところを、市民が平等でいるということがいかに大事なことなのかとか、そういったところを教えてあげていただきたいと。

特に、このところ自分が一番であればいいというような風潮もはびこってきていますし、新島先生は官僚とかが嫌いだったと思うんですけども、民間で力をつけようというのが同志社だと思うけれども、そこらへんのことをぜひとも今の学生、同志社に入っただけでブランドを手に入れたかのような、昔から坊ちゃんと言われてはいますが、世界を目指すような人材を育成してほしいと思っています。

井上：沖田先生、何か付け加えられることは。よろしゅうございますか。はい、どうぞ。

F：関東から来ましたFです。先生方、ご苦労さまです。先ほどからいろいろと良心についてお話をされていますけれども、私は良心というのは別に取上げて話すことはないと思います。これは当たり前の話で。むしろ、同志社はキリスト教主義というあれを前面に出してやっていくべきだと思うんです。寄附行為に関してですけれども、同志社は2ドルの献金、老農夫と老寡婦からラットランドの教会で寄附を受けた、それがベースです。

ところが、最近見えますと寄附ですね。慶應が一番、関西ではよそさんは立命館であれですけど、立命館も寄附は少ないんですね。今ごろになって同志社は寄附をやってくれ、やってくれと。やはり、寄附というのは非常に大事です。ましてやキリスト教主義の学校ですから。だから、むしろ良心なんていうのは当たり前の話なので。それを取り下げるかどうかは学校のあれですけども、キリスト教主義を前面に出されたほうが、もちろん国際主義も必要ですけども、私はそういうふうを考えているんですけども、先生方のご意見をいただければと。

それから、最近出ました『AERA』（アエラ）という雑誌ですね。これは大学の宣伝の、朝日新聞の週刊朝日とは違って『AERA』という週刊誌で出てはいますが、それとは別個の増刷版で同志社のことが出ていたので私

は買い求めたんです。まず第1ページ目に良心と書いてあるんですね。これは恐らく同志社の入学勧誘のための宣伝のあれだと思うんですけども、ちょっと私、非常に違和感を持ちました。

沖田：国際主義でも新島先生が言っているのは愛人主義、人を愛しましょうと。人を愛するということは、国境、国家、民族も超えていくんだと。これが実は同志社の国際主義やだと思うんですよ。だから、例えば他者に対して怒りとか憎しみを持たずに、すべて他者を愛しなさいと。こういうのがキリスト教主義だと思います。

今おっしゃったように、良心教育という曖昧な言葉ではなくて、キリスト教主義に乗った多くの人々、隣人を愛しましょう。困っている人を助けましょうと。そういう徹底した同志社の教育のベースになるものがだんだん希薄になってきていると思います。だから、おっしゃるとおり、先ほど大谷先生はキリスト教主義というと非常に狭いので、良心教育という広いほうがいいのではないかとおっしゃった。しかし、やはり大学の顔として、これほどの明確な教育理念を持った大学はないのでね。新島先生の言葉から学ぶようにしなければと思いますね。これは重要やと思いますね。「良心の全身に充満したる丈夫（ますらお）の起り来らん事を」というものを、良心教育と言うから問題であってね。新島先生が主張された良心とは何かというところ、真理に照準して、キリスト教に結びつけて人間を考えるというね。そうすればいいと思うんですよ。良心教育という言葉が非常に曖昧。

そういう意味では、良心碑を見て「ああ、同志社らしいな」と思った、それはそうだと思うんですよ。しかし、良心教育の実態を4年間の教育を通して学んでいくようなカリキュラム、または大学の姿勢がなかったら、良心教育の中身が見当たらない。非常に言葉だけのものになってくる。やっぱり建前ではなくて、教育の実態として学生が感じられるもの、卒業生も、4年間いて、これが同志社の教育の理念であると。やっぱり自分の青春を懐かしんで、自分たちが一生懸命頑張っている学生に少しでも寄附しようというような雰囲気を作るような、やはり大学の理念の再構築が必要やと思うんですよ。良心教育では、おっしゃったようにあまりお金は集まらないと思うんですよ。人を動かすような、新島先生の心に触れるような、そういう新島の教

育理念、そういうものをわれわれは学生に与えていかなければ駄目なんじゃないかという気がしますね。私ばかりしゃべって。どうぞ、先生。

井上：今の沖田先生のご意見に対して、よろしゅうございますか。はい。ほかに、先生。北垣先生、ございますか。



北垣：今のお言葉に僕は賛成です。確かに、良心教育というものも、私が言ったように解釈に過ぎません。新島襄の理想を何とか実現しようと思って、いろいろと後世の後継者たちが考えたわけですね。キリスト教と結びつけざるを得なかったというところもそれだと思いますし、私は今日の先生のお話の良心碑の立てられた事情というのは面白いと思いました。

しかし、それが同志社で定着しているわけではなくて、やっぱり良心碑という目に見えるものがありますし、僕はむしろ良心という言葉が掘り起こせば掘り起こすほどキリスト教と無関係でないということに誰も当たるわけでして、そのことに大変興味があります。キリスト教と関係づけることなしに良心を色づけることはできないだろうと思います。以上です。

井上：ありがとうございました。伊藤先生。

伊藤：私も実は良心学研究の中のメンバーに入っておりますので、多少その研究会を弁護しながらしゃべりたいと思います。まず、良心学とか、それから建物に良心館とつけていると、何かきざであるとか、あるいは非常に偽善的なイメージが生まれやすいだろうと、これは思います。

ただ、今の良心学研究会は非常に有能な小原先生という神学部の先生を軸に、かなり幅広く柔軟性を持って動いていますので、非常に有効な仕事をしているのではないかと思います。

一つは、いろいろな分野の方を意図的に集めて動いているということですね。何よりも面白いのは脳科学という自然科学の先生が何人か加わっていることです。そうすると、まったく人文系や社会科学系では想像できないような観点から発想しまして、やっぱり調べてみると、人間の脳の中に良心とい

えるものが大体はあるんじゃないかなと。ただし、脳が欠損している人間がいて、その場合にはまったくそれが無い人間も起こるのであると。こういうふうなことを言うわけですね。

それで、ちょうど同じようなことを江戸時代の儒者の伊藤仁斎がそういうことを言っていて、人間はもともと道徳的なんだと言われるけれども、中にはまったく徳と無関係な人間も生まれながらにしてあるような気がすると漏らしているんですね。吉川幸次郎がそれをまとめて、仁斎が「今までの儒者の中で誰も言わなかった卓見じゃないか」と言っていますけど、そういうふうな生理的な問題も含めて考える幅があること。

それから、例えば経営学者なんかが入っています。そうすると、そういう人たちはブラック企業というふうなことに非常に関心があるわけですね。何がブラック企業で何がブラック企業ではないかということから企業の良心というものを考えていくと、論語の言葉で「過ちてそれを改めざる、これすなわち過ちなり」ということでありまして、ブラックの面に気がついた企業で自己修正能力がある企業はブラック企業ではなくなっていくだろうと。その自己修正能力がない企業はブラック企業だろうというわけですね。

そうすると、ブラック同志社とクール同志社と考えますと、一体、欠損した事件を起こすような悪質な学生が出ないように、また過ちを繰り返さないような大学になるかならないかとか、そんなことでブラック同志社になるか、クール同志社になるかの違いも分かる、将来がかかるかなと思っております。

私はキリスト教に無縁でありますので、キリスト教を基盤にしろと言われるとちょっと複雑な気持ちがいたします。新島が同志社を作る中で同志社というものは congregational な大学とは考えないということは何回か言っていて、宗派にとらわれない大学にしたいと。そこまでは言っているわけですね。アメリカなんかでも、大学が自律してくると宗派から独立してまいりますので、もうちょっと幅はあってもいいかなと思ったりしております。

井上：私は司会者でございますけれども、一言、私の意見を申し上げたいと思います。私は同志社大学に学び、教え、現在退職した者でございます。例えば一番新しい同志社の建物が良心館という名前がついておりますね。ご存

じのとおり。それから、新町校舎に行きますと、見上げますと「人一人ハ大切ナリ」と書いてありますね。私は同志社に学ぶ学生が、それが4年であれ、大学院を含めて6年であれ、空気のように吸っているうちに「人一人ハ大切ナリ」という言葉がいつの間にかその人の人生観の端っこに位置づけられるということを私は実感として知っております。

したがって、大学がその建物のすべてに何号館、何号館というのをつけて終わる学校もありますけれども、同志社のように良心館とか有終館とかいろんな名前をつけることに、そのキャンパスで学ぶ学生に対する教育を間接的にやっているんだと。こういうことを私は実体験として皆様に申し上げたいのであります。以上です。はい、どうぞ。

北垣：付け加えて言わせていただきますけれども、今回のことで準備のために良心学研究センターに連絡しようと思ったら、同志社の名簿に載ってないんですよ。良心学研究センターというのはどこにもありません。これは良心がないということだと思いたいです。

井上：一番新しい名簿にも出ていませんか。

北垣：出ておりません。

B：すみません。手を挙げていたのもう一度だけ言わせてください。仏教とか神道の大学でない限り、多くの大学が何となく儒教的な、儒学的なものを打ち出すんですね。ところが、さっきも申し上げましたとおり、私は立命館なんですが、立命館の建物は全部心がついているんです。もうずっと昔から。研心館とか存心館か、皆心がついています。そして、僕がいた間、教えられたことが良心なんです。だから、良心というものを訴えている大学なんてもうそれこそ昔でいえば道に落ちている馬の糞みたいにかくさんあると思います。

キリスト教は全1,000校からある大学の中で何校ありますか？ だから、僕は立命館で学んでいる間、ずっとものすごく不満だったんですね。私は幸いというか、キリスト教の家に生まれて、親父も非常に厳しいクリスチャンだったので、徹底してキリスト教教育を受けたもので、非常に変な感じを受けました。それで、そのときに特に感じたのが、同志社の神学部の方がイエスカゲバラかと言ったんですね、あの当時ね。ゲバラは人間ですよ

ね。私は、イエスは人間だとは思っていないので。それと同じことを今ちょっと先生から聞いて、先生の意見じゃないですよ。聞いた、軍部の意見と同志社がそれに答えた意見と、聞いていますとイエスカゲバラみたいのに聞こえたんですね。

だから、僕は同志社のようにすごい学校が、僕が懂れていて、僕の息子も入れましたし、息子も今同志社大学を出たおかげで、今じゃ名古屋の、言うてええのかな、市長に継ぐ地位にいますけども、森永先生にこの間言うたら、「そら、Bさん、同志社へ入れたからですよ」とえらい、私はすばらしいと思うんです。私は、同志社を何らけなす気も全然ないです。けれども、僕らが外から、しかもクリスチャンとして外から見ていると、同志社は何で新島襄はクリスチャンであり、聖書をあれだけ大切にしているのに、何で日本中の大学が唱えているような良心というような名前を引っ張りだしてくるのかなという具合に僕は疑問に思っていて、今日はほんまに言いたくてこんなになっていたんですけど。

井上：ありがとうございました。

沖田：ちょっと一言いいですか。私は、新島襄は多くのお弟子さんに影響を与えたと同時に、徳富蘇峰からも大きな影響を受けているのではないかと思うのです。新島先生はね。良心を手腕に運用したる社会を作っていこうというね。そういう思想は徳富蘇峰から受けたものだと思うんですよ。だから、横田安止の宛てた手紙は、文脈で同志社の教育を言ったんじゃなくして、当時の日本の政治状況の中でああいうオリバー・クロムウエルのような良心を手腕に運用しうるそういう人が出てくる必要があるんじゃないかと言うことだと、私のそういう解釈は間違っているんですかね？　そういうふうに理解しています。

それで、良心教育はそのとおりです。京都大学は非良心教育かと。慶應、早稲田は反良心教育かと。みんなやっていますよね。学問をしている人はみんな、クリスチャンであるかどうかにかかわらず、宗教を持っているかにかかわらず、みんな良心的に学生に対応していると。だから、良心教育といっても同志社の教育を言うたことにならないんですよ。これを言ってもたらおしまいですけどね。もっと違う、よその大学と違う、同志社独特の教育理

念があるはずなんです。それは新島襄の教育理念なんです。そういうことをやっぱり前面に押し出すほうが、今後の同志社にとって重要ではないかと思えます。

**B**：責任だと思っんですけどね。

井上：ありがとうございます。このフロアには立命館大学のご出身者もおられるし、早稲田大学の出身者もおられるし、いろんな大学の出身者がおられてよろしいんじゃないでしょうか。われわれは新島襄を建学の理念として持っていますけれども、新島がオーソライズドされてしまうと形骸化してしまう。やはり、その長所とともに短所は何であるのかということ客観的に検討する必要があるんじゃないでしょうか。そういう意味では、皆さんからの積極的なご批判、ご意見も拝聴したいと思っていますところでございます。まだもうちょっと時間がありますので、いかがでしょうか。ほかにいかがでしょうか。はい、どうぞ。

**G**：私は、63年に商学部を出ました一卒業生のGと申します。今、座っておられます4人の方の中で、私は北垣先生とは1960年に、北垣先生の結婚式で初めて北垣先生と出会いました。それから、伊藤先生は、伊藤先生は全然ご存じないと思いますが、ちょうど阪神淡路大震災があった95年のとき、当時、伊藤先生は田辺校舎のほうで新島学を教えておられましたので、私は聴講生としてずっと講義を拝聴させていただきました。それから、井上先生は北垣先生が主催されていた人文研のアーモスト大学と同志社の交流シンポジウムのときに4年か6年間一緒にご同席させていただきました、井上先生のコメント等が非常に鮮明に残っておりますが、そういう関係で私は今日非常に関心を持っていたものですから、はるばる炎天下のもとやってきた次第です。

それから、沖田先生は、これも私、アーモスト館出身なものですから、そういう関係で沖田先生のお名前と、それから何回かのお話を賜っております。そういうことで以下、質問というよりも、批判もしてもいいとおっしゃいましたので、一卒業生として同志社に対する批判をしたいと思えます。

悪いところもあると思えますけれども、少なくとも私は卒業して50年以上、日々考えてきたこともあるんです。といいますのは、一つにはキリスト

教についてです。私が同志社へ入ったときは2年間浪人して、国立大学を滑って、滑り止めで同志社へ入ったものですから、入学式のときも賛美歌を聞きながら「ああ、俺、これ、違った学校へ来てしまったな」という、同志社へ入ったときの印象はそういうことで、まして良心的教育とかキリスト教教育を期待して入ってきたわけでは全然ないんです。

しかし、入ってみてから、結論だけを言いますと、私は何とか与えられたこの同志社のキャンパスを100%利用してやれということで、まず一つ利用させていただいたのは当時の宗教センターであります。宗教センターには笠原先生とか、それから川崎洋子先生、それからハワイ寮の舎監をされていましたヤング先生、それから英国から来ておられたD. G. ロイド先生、その人の聖書講座を、私は商学部の授業をサボりながら、ずっと4年間続けて出席しました。

それから、先ほど誰か話されましたけれども、チャペル・アワー、当時は授業がないものですから、分からないなりに何とかキリスト教を理解しようと思って、サボった日もありますけれども、アッセンブリー・アワーと一緒に出席をしました。

それから、もう一つは、私はオーテス・ケーリさんという先生、これこそまさしく私の人生の大先生ですが、オーテス・ケーリさんの人格教育を通して、私は、何ていうんでしょうか、人間主義の教育、そうとしか言いようがないんですが、あるいは裸の人間教育、これに打たれまして、「あ、同志社にはこういう人がいたのか」と。そこで初めて私は同志社大学の存在価値というものを自分なりに納得しました。

以下、ちょっとアプローチが長くなってしまいましたが、4年間、同志社大学で学んでから、私は国際主義といったら多少大げさかもわかりませんが、日本貿易振興会という職場に籍をおいてきましたけれども、やはりケーリさんから学んだ人間主義、それがただ単なる縦関係のことじゃなしに、やはり人間の人格主義、これが今日のテーマになっております conscience だと思います。そういう思想を私は現在でも持っておりまして、例えば私の時代ではベトナム戦争に反対するために、私はサラリーマンでしたけれども、ベ平連に入ってデモにも参加しました。沖縄返還のときは沖縄へ

行って、労働組合の代表として座り込みをやってきました。

これは私のささいなことなのですが、同志社に対する批判を端的に申し上げますと、やれ、キリスト教主義だ、良心主義だ、国際主義だ、自由主義だと、何か言葉だけがひとり歩きしているような感じを今でも持っております。一番欠けているのは faculty と学生との人格的な教育が非常にないんじゃないかと。それは今でも痛感しております。

たまたま長男も次男も同志社を出ましたけれども、彼らはやはり人格教育をされていないと見えて、同志社に対する愛着はあっても、先ほど誰かが言われました、何か貢献しようとか、そういう思いはさらさら持っていないような感じがします。

結論を申し上げますと、私はやっぱりキリスト教主義というものは在学中のみのキリスト教じゃなしに、社会に入ってから、そしてまた生きている限り何が真実なのかという問いを問い続けていくようなイエス・キリストとの対話、そういうものじゃないかなと思いますから、簡単にキリスト教主義とか、あるいは良心主義とか、そういうものに結論を出さないような、もっと人間対人間のふれあいをするような、その教育を根底に置いて、今後の同志社教育をする必要があるような感じがします。

井上：ありがとうございます。H先生、先ほど手を挙げられましたね。

H：どうもすみません。本当に今日はいろいろ啓発されるところの多いお話をたくさん聞かせていただいて、今はまた同志社教育の根幹に関わるような大事なことをこの空気の中で感じられまして、大変うれしく思っております。

こんな小さな質問をしてというのでちょっと気が引けるんですけども、沖田先生のお配りしていただきました資料なんですけれども、3枚のうち2枚目に奥村隆三さんのことが出ておりますが、隆三の「隆」という字は「龍」という字を書く龍三さんという方もおられました。総務部長をしてもらったんですが、同一人物なのでしょうか。それとも、別人なのでしょうか。ということなのでございます。

沖田：『百年史』（『同志社百年史』：著者注）にはこの表記があるんですね。それで、ある資料には「龍」の字が書いてあるんですね。私が依拠したのは

百年史の資料を、初めは「龍」にしていたんですけど、『百年史』には「隆」を使っている。それで、同一人物だと思います。プリントミスで「隆」になったり「龍」になったりしているんですけども。私がずっと今まで見てきたのは「龍」のほうですが、先だって百年史で確認したらこの字になっていた。

井上：はい、どうぞ。ちょっとお待ちください。短くお願いします。

H：今の奥村隆三さんの「隆」のことですが、奥村さんは人物特定するためにあれするんですが、戦前、神戸 YMCA の総主事をなさっていて、戦中・戦後、同志社の理事、それから総務部長をなさった方でしょうか。もしそうだとすれば、実は私、その奥村隆三さんに仲人をしていただいておりますので、そのときにやっぱり「龍」ですね。

沖田：「龍」が正しいと思います。

H：はい。そのことをちょっと申し上げたいと。

沖田：『百年史』が間違ってるんですね。

井上：はい、どうぞ。

H：いろいろいいお話を聞かせていただいて、ありがとうございます。いろいろ意見がございませうけれど、私としては今後、同志社はどうすべきかということについてしばらく結論が出ないとすれば、新島主義でいくというふうな言い方を当分使ったらどうかと。やはり新島襄に立脚した大学にすると。それは、キリスト教主義というふうに言ってしまうと、それは普通名詞になってしまいますので、普通名詞になると新島からある意味では離れていくという問題が出てまいります。

私はやはり、新島襄の影響を受けた人はどういう人かとか、何で影響を受けたのかといったら、やはり私は彼の教育方針に影響を受けたのではないかと。教育方針をいろいろ分析してみますと、やっぱりキリスト教の中で、キリスト教の教えたこと、特に彼の場合は三つの学校の理想といえますか、理念から学んで、それが身について、またいいクリスチャンから学んだことから彼の教育方針というのができたと思います。その方針に従ってずっと接してきた者で、それに影響を受けた人がいろいろ育っていくと。その中で、私はほかの大学にはない特徴として、福祉関係が多いということにもっと注目

をしていただいて、福祉の人がなぜ同志社からたくさん出るのかということ  
を逆算してみれば、やっぱり新島襄主義がいいのではないかと。

そのために今後何をすべきかというのは、今、新島塾というのもございま  
すけれども、やっぱり何百人の新島襄を育てていかないと、この1万2,000  
人の規模を擁していくわけにはいかないということで、新島主義がいいんで  
はないかというご提案ですが、いかがでしょうか、先生方。

井上：ありがとうございます。伊藤先生、何かございますか。いいです  
か。時間がちょうど2時50分になりまして、コーヒー・アワー、コーヒー  
・ブレイクの時間に入りました。事務局に後ろに並べていただきましたの  
で、ちょっと一服の時間をとりたいと思っております。先ほど出ましたよう  
な意見もどうぞ、立ち話としてお出しいただければ幸いです。それ  
では、次は15時30分からでございますが、よろしく願いいたします。